

基本計画書

基本計画										
事項	項目	記入欄						備考		
計画の区分		学部の設置								
フリガナ	設置者	ガッコウホウジン オオサカセイケイガクエン 学校法人 大阪成蹊学園								
フリガナ	大学の名称	オオサカセイケイダイガク 大阪成蹊大学 (Osaka Seikei University)								
大学の位置		大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10番62号								
大学の目的		本学は人間の徳を涵養する成蹊の名を体し、幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた豊かな人間性を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、実践的な専門教育に重きを置く大学教育を施し、実社会において知的、道徳的及び応用的能力を展開し得る人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的		看護の実践に必要な基礎的・専門的知識と技術や態度を理解し、自律して看護実践を行うことができるとともに、生活する人々の多様な健康課題を理解し、高度な医療に必要な技術と支援を探求できる人材、さらに今後、変化する社会が要請する人々への支援と包括ケアシステムや多職種連携の必要性を考え、地域社会に貢献できる看護職者を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学部 [Faculty of Nursing Science] 看護学科 [Department of Nursing Science]	年	人	年次人	人	学士(看護学) 【Bachelor of Nursing Science】	年月 第 年次	大阪府大阪市東淀川区 相川3丁目10番62号		
	計	4	80	—	320		令和5年4月 第1年次			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		大阪成蹊大学 データサイエンス学部データサイエンス学科（80）（令和4年3月認可申請） 経営学部経営学科（3年次編入学定員）（9）（令和4年6月認可申請） 芸術学部造形芸術学科（3年次編入学定員）（6）（令和4年6月認可申請） 大阪成蹊短期大学 栄養学科 [定員減] (△10) (令和4年5月届出) 生活デザイン学科 [定員減] (△10) (令和4年5月届出) グローバルコミュニケーション学科 [定員減] (△10) (令和4年5月届出) 観光学科 [定員減] (△30) (令和4年5月届出) 幼児教育学科 [定員減] (△100) (令和4年5月届出) 経営会計学科 [定員増] (20) (令和4年5月届出)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学部	講義	演習	実験・実習	計					
	看護学部	75科目	27科目	11科目	113科目	132 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
	新設	看護学部 看護学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	※令和4年3月認可申請
			人	人	人	人	人	人	人	
			7	2	9	10	28	0	55	
	(7)	(2)	(9)	(10)	(28)	(0)	(45)			
	分	データサイエンス学部 データサイエンス学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			9	5	2	1	17	0	46	
			(8)	(5)	(2)	(1)	(16)	(0)	(38)	
	計		16	7	11	11	45	0	—	
	計		(15)	(7)	(11)	(11)	(44)	(0)	(—)	
既設	経営学部 経営学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等		
		9	11	2	0	22	1	92		
	計		(9)	(11)	(2)	(0)	(22)	(1)	(92)	
	分	スポーツマネジメント学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			6	5	2	0	13	0	103	
	計		(6)	(5)	(2)	(0)	(13)	(0)	(103)	
概要	国際観光学部 国際観光学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等		
		6	5	2	4	17	0	61		
		計		(6)	(4)	(2)	(4)	(16)	(0)	(59)
分	芸術学部 造形芸術学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等		
		11	15	5	0	31	0	139		
		計		(11)	(15)	(5)	(0)	(31)	0	(139)
要	教育学部 教育学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等		
		16	15	8	0	39	2	120		
		計		(16)	(15)	(8)	(0)	(39)	(2)	(120)
計		48	51	19	4	122	3	—		
計		(48)	(50)	(19)	(4)	(121)	(3)	(—)		
合計		64	58	30	15	167	3	—		
合計		(63)	(57)	(30)	(15)	(165)	(3)	(—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		96 人 (96)	8 人 (8)	104 人 (104)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	2 (2)	5 (5)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		99 (99)	10 (10)	109 (109)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	15,719.75 m ²	28,356.03 m ²	59,003.81 m ²	103,079.59 m ²	大阪成蹊短期大学 (必要面積10,800 m ²)、びわこ成蹊スポーツ大学 (必要面積14,400 m ²) 及び大阪成蹊女子高等学校 (運動場等8,600 m ² ・収容定員2,040人)と共用 校舎敷地 専用内の、借用面積：9,787.51 m ² 借用期間：53年				
	運 動 場 用 地	0.00 m ²	16,294.37 m ²	79,482.00 m ²	95,776.37 m ²					
	小 計	15,719.75 m ²	44,650.40 m ²	138,485.81 m ²	198,855.96 m ²					
	そ の 他	0.00 m ²	594.52 m ²	15,611.11 m ²	16,205.63 m ²					
	合 計	15,719.75 m ²	45,244.92 m ²	154,096.92 m ²	215,061.59 m ²					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	22,061.70 m ² (22,061.70 m ²)	23,012.87 m ² (23,012.87 m ²)	4,840.91 m ² (4,840.91 m ²)	49,915.48 m ² (49,915.48 m ²)	大阪成蹊短期大学 (必要面積11,150m ²) と共用					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 (大阪成蹊短期大学と共用を含む)				
	30 室	71 室	175 室	15 室 (補助職員一人)	1 室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学部		25 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学・短大での共用分 図書 318,656(41,645) 学術雑誌 18,239(16,057) 電子ジャーナル 15,926(15,926) 視聴覚資料 6,637 機械・器具 3,449 標本 34		
	看護学部	3777 [100] (3777 [100])	27 [8] (27 [8])	9 [8] (9 [8])	90 (90)	0 (0)	0 (0)			
	計	3777 [100] (3777 [100])	27 [8] (27 [8])	9 [8] (9 [8])	90 (90)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		1,911.90 m ²		239 席	329,960 冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		4,706.37 m ²		該当なし						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子書籍・オンラインジャーナルの整備費を含む(運用コストを含む)	
		教員1人当り研究費等		360千円	360千円	360千円	360千円	— 千円		— 千円
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	— 千円		— 千円
		図書購入費	20,732千円	5,183千円	5,183千円	5,183千円	5,183千円	— 千円		— 千円
		設備購入費	435,527千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	— 千円		— 千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,894千円	1,710千円	1,710千円	1,710千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、私立大学等経常費補助金収入等をもって充当する。							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		大阪成蹊大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	経営学部 経営学科	4 年	140 人	3年次 1 人	432 人	学士(経営学)	1.09 1.22	平成15年度	大阪府大阪市東淀川区相川3丁目10番62号	令和2年度入学定員増(40人) 令和4年度入学定員増(30人)
	スポーツマネジメント学科	4 年	120 人	3年次 1 人	452 人	学士(経営学)	1.07	平成28年度	同上	令和4年度入学定員増(10人)
	国際観光ビジネス学科	4 年	-	-	-	学士(経営学)	0.97	平成30年度	同上	令和4年度より学生募集停止
	国際観光学部 国際観光学科	4 年	80 人	3年次 2 人	80 人	学士(経営学)	-	令和4年度	同上	
芸術学部 造形芸術学科	4 年	220 人	3年次 1 人	792 人	学士(芸術)	1.13 1.13	平成18年度	同上	令和4年度入学定員増(30人)	

既設大学等の状況	教育学部						1.06				
	教育学科						1.06				
	初等教育専攻	4	150	3年次 5	560	学士(教育学)	1.08	平成26年度	同上	令和2年度入学定員増(20人) 令和4年度入学定員増(10人)	
	中等教育専攻	4	70	-	250	学士(教育学)	1.03	平成30年度	同上	令和4年度入学定員増(10人)	
教育学研究科											
教育学専攻	2	5	-	10	修士(教育学)	0.80	平成30年度	同上			
既設大学等の状況	大学の名称	びわこ成蹊スポーツ大学									
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地		
		年	人	年次 人	人		倍				
	スポーツ学部										
	スポーツ学科	4	360	-	1,440	学士(スポーツ学)	1.11	平成27年度	滋賀県大津市北比良 1204番地		
競技スポーツ学科	4	-	-	-	学士(スポーツ学)	-	平成15年度	同上	平成27年度より学生募集停止		
スポーツ学研究科											
スポーツ学専攻	2	10	-	20	修士(スポーツ学)	0.30	平成24年度	同上			
既設大学等の状況	大学の名称	大阪成蹊短期大学									
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地		
		年	人	年次 人	人		倍				
	生活デザイン学科	2	50	-	100	短期大学士 (生活デザイン)	0.92	平成28年度	大阪府大阪市東淀川 区相川3丁目10番62号		
	調理・製菓学科	2	100	-	200	短期大学士 (調理・製菓)	1.07	平成28年度	同上		
	栄養学科	2	80	-	160	短期大学士 (栄養)	0.99	平成28年度	同上		
	幼児教育学科	2	280	-	560	短期大学士 (幼児教育)	0.85	昭和31年度	同上		
	観光学科	2	90	-	180	短期大学士 (観光)	0.92	昭和42年度	同上		
	グローバルコミュニケーション学科	2	30	-	60	短期大学士 (グローバルコミュニ ケーション)	0.96	平成15年度	同上		
	経営会計学科	2	50	-	100	短期大学士 (経営会計)	1.09	平成15年度	同上		
附属施設の概要	該当なし										

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人大阪成蹊学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度
 入学定員 編入学定員 収容定員

大阪成蹊大学			
経営学部		3年次	
経営学科	140	1	562
スポーツマネジメント学科	120	1	482
国際観光学部		3年次	
国際観光学科	80	2	324
芸術学部		3年次	
造形芸術学科	220	1	882
教育学部			
教育学科		3年次	
初等教育専攻	150	5	610
中等教育専攻	70	-	280
<hr/>			
計	780	10	3,140
大阪成蹊大学大学院			
教育学研究科			
教育学専攻(M)	5	-	10
計	5	-	10
びわこ成蹊スポーツ大学			
スポーツ学部			
スポーツ学科	360	-	1,440
計	360	-	1,440
びわこ成蹊スポーツ大学大学院			
スポーツ学研究科(M)	10	-	20
計	10	-	20
大阪成蹊短期大学			
生活デザイン学科	50	-	100
調理・製菓学科	100	-	200
栄養学科	80	-	160
幼児教育学科	280	-	560
観光学科	90	-	180
グローバルコミュニケーション学科	30	-	60
経営会計学科	50	-	100
計	680	-	1,360

令和5年度
 入学定員 編入学定員 収容定員 変更の事由

大阪成蹊大学			
経営学部		3年次	
経営学科	140	<u>10</u>	<u>580</u> 3年次編入学定員変更(9)
スポーツマネジメント学科	120	1	482
国際観光学部		3年次	
国際観光学科	80	2	324
芸術学部		3年次	
造形芸術学科	220	<u>7</u>	<u>894</u> 3年次編入学定員変更(6)
教育学部			
教育学科		3年次	
初等教育専攻	150	5	610
中等教育専攻	70	-	280
<u>データサイエンス学部</u>			学部の設置(認可申請)
<u>データサイエンス学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>
<u>看護学部</u>			学部の設置(認可申請)
<u>看護学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>
<hr/>			
計	<u>940</u>	<u>25</u>	<u>3,810</u>
大阪成蹊大学大学院			
教育学研究科			
教育学専攻(M)	5	-	10
計	5	-	10
びわこ成蹊スポーツ大学			
スポーツ学部			
スポーツ学科	360	-	1,440
計	360	-	1,440
びわこ成蹊スポーツ大学大学院			
スポーツ学研究科(M)	10	-	20
計	10	-	20
大阪成蹊短期大学			
生活デザイン学科	<u>40</u>	-	<u>80</u> 定員変更(△10)
調理・製菓学科	100	-	200
栄養学科	<u>70</u>	-	<u>140</u> 定員変更(△10)
幼児教育学科	<u>180</u>	-	<u>360</u> 定員変更(△100)
観光学科	<u>60</u>	-	<u>120</u> 定員変更(△30)
グローバルコミュニケーション学科	<u>20</u>	-	<u>40</u> 定員変更(△10)
経営会計学科	<u>70</u>	-	<u>140</u> 定員変更(20)
計	<u>540</u>	-	<u>1,080</u>

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
大学共通科目	学びの基礎	成蹊基礎演習1	1前	2				○			7	1						
		成蹊基礎演習2	1後		2				○		7	1						
	外国語	英語基礎 I	1前	1					○								兼1	
		英語演習 I	1・2前		1				○								兼2	
		中国語入門 I	1・2・3前後		1				○								兼1	
		フランス語入門 I	1・2・3前後		1				○								兼1	
		韓国語入門 I	1・2・3前後		1				○								兼2	
	人間と生活・社会の理解	人間と智	人間と文学	1・2・3・4前後		2			○									兼1
			人間と哲学	1・2・3・4後		2			○									兼1
			人間と芸術	1・2・3・4後		2				○								兼1
			現代倫理	1・2・3・4前		2				○								兼1
		心理学概論	1・2・3・4前後		2				○								兼2	
		カウンセリング理論	1前	1					○									兼1
		国際社会と日本	日本国憲法	1・2・3・4前後		2				○								
	国際関係論		1・2・3・4前		2				○									兼1
	人権と社会		1前後	2					○									兼1
	社会学概論		1・2・3・4前後		2				○									兼2
	現代と社会福祉		1・2・3・4前後		2				○									兼2
	大阪の風土と文化		1・2・3・4前後		2				○									兼1
	京都の文化と芸術		1・2・3・4後		2				○									兼1
	ジェンダー論	1・2・3・4前後		2				○									兼1	
	科学的思考の基盤	科学と環境	化学	1前	2				○									兼1
			生物	1前	2				○									兼1
			生命倫理	1後	1					○								兼1
			暮らしの科学	1・2・3・4前後		2				○								兼1
			地球環境問題	1・2・3・4前後		2				○								兼1
	スポーツと健康	スポーツ演習 I	1・2・3・4前		1				○									兼4
		健康科学	1・2・3・4前後		2				○									兼1
	リテラシー	AI・データ	AI入門	1・2・3・4後		2			○									兼1
			統計学基礎	1前	2				○									兼2
			統計学実践	1・2・3・4後		2				○								兼2
			情報リテラシー1	1前	2					○								兼1
			情報リテラシー2	1後	2				○								兼1	
		小計 (33科目)	—	15	43			—		7	1	0	0	0				
専門科目 (基礎分野)	人体の構造と機能	人体の構造と機能 I	1前	2				○									兼1	
		人体の構造と機能 II	1後	2				○									兼1	
		病理学	1後	2					○								兼1	
		生化学	1前	2					○								兼1	
		薬理学	1後	2					○								兼3	
		病原微生物と感染	1後	2					○								オムニバス	
		栄養学	1後	2					○								兼1	
	ちと回復の促進	疾病治療論 I	2前	1					○									兼1
		疾病治療論 II	2前	1					○								兼1	
		疾病治療論 III	2前	1					○								兼1	
		疾病治療論 IV	2前	1					○								兼2	
			発達心理学	1後	2				○								兼1	
	社会健康支援と	度保障と	疫学・保健統計学	1後	2				○									兼1
公衆衛生学			2後	1					○								兼1	
社会福祉と社会保障			1後	2					○								兼2	
保健医療福祉行政論			2後	1					○								兼1	
		小計 (16科目)	—	26	0			—		0	0	0	0	0				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目(専門分野)	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1前	1			○			1								
		看護学概論Ⅱ	1前	1			○			1								
		基礎看護学方法論Ⅰ	1前	2			※	○		1		2	1		※講義	共同		
		基礎看護学方法論Ⅱ	1後	2			※	○		1		2	1		※講義	共同		
		基礎看護学方法論Ⅲ	2前	2			※	○		1		2	1		※講義	共同		
		基礎看護学方法論Ⅳ	2前	2			※	○		1		2	1		※講義	共同		
		基礎看護学実習Ⅰ	1	1					○	1		8	10			共同		
	基礎看護学実習Ⅱ	2	2					○	1		8	10			共同			
	成人看護学	成人看護学概論	2前	2				○		1								
		成人看護学援助論Ⅰ	2	2				○		1		2					共同	
		成人看護学援助論Ⅱ	2	2				○		1		1					共同	
		成人看護学方法論Ⅰ	3前	1					○			2	2				共同	
		成人看護学方法論Ⅱ	3前	1					○	1		1	2				共同	
		成人看護学実習Ⅰ	3	3						1		3	2				共同	
	成人看護学実習Ⅱ	3	3						1		3	2				共同		
	老年看護学	老年看護学概論	2前	2				○		1								
		老年看護学援助論	2	1				○		1		1					共同	
		老年看護学援助方法論	2後	2					○	1		1	2				共同	
		老年看護学実習	3	3						1		1	2				共同	
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	2前	2				○		1								
		地域・在宅看護学援助論	2	1				○		1		1					共同	
地域・在宅看護学援助方法論		2後	2					○	1		1	2				共同		
地域・在宅看護学実習		3	3						1		1	2				共同		
精神看護学	精神看護学概論	2前	2				○		1									
	精神看護学援助論	2	1				○		1	1						共同		
	精神看護学援助方法論	2後	2					○	1	1		1				共同		
	精神看護学実習	3	2						1	1		1				共同		
母性看護学	母性看護学概論	2前	2				○		1									
	母性看護学援助論	2	1				○		1		1					共同		
	母性看護学援助方法論	2後	2					○	1		1	1				共同		
	母性看護学実習	3	2						1		1	1				共同		
専門科目(専門分野)	小児看護学	小児看護学概論	2前	2				○			1							
		小児看護学援助論	2	1				○			1	1					共同	
		小児看護学援助方法論	2後	2					○			1	1	1			共同	
		小児看護学実習	3	2							1	1	1				共同	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後	2				○		1								
		健康教育論	2後	2				○	※	1		1				※演習	共同	
		公衆衛生看護管理論	4前		1			○		1		1					共同	
		家族相談援助論	3前		1			○		1		1					共同	
		公衆衛生看護活動論	2後		2			○		1		1					共同	
		地域看護診断学Ⅰ	3前		2			○	※	1		1				※演習	共同	
		地域看護診断学Ⅱ	3前		2			○	※	1		1				※演習	共同	
		公衆衛生看護学演習	3後		2				○	1		1	2				共同	
	公衆衛生看護学実習	4前		5					1		1	2				共同		
	看護の統合と実践	地域健康探索論Ⅰ	1前	1				○		1		1						共同
		地域健康探索論Ⅱ	1後	1					○	1		1	2					共同
		地域健康探索展開論	4後		1			○		1		1						共同
		国際看護論	4前		1			○				1						兼1
		災害看護論	3前		1			○										共同
		地域包括ケア論	2後		1			○		2								共同
		多職種連携チームケア論	4後		1			○		1	2							兼3
		ウイメンズヘルス論	4前		1			○		1								オムニバス
がん看護学		2後		1			○		1									
緩和ケア論		4前		1			○		1									
看護教育学		4前		1			○		1									
看護倫理		4前		1			○		1									
看護マネジメント論		3前		1			○		1									
精神保健論		4前		1			○		1									
地域健康探索論演習		1後		1				○	1		1	2					共同	
看護の統合と実践実習		4前		2					7	2	9	10					共同	
卒業研究Ⅰ	4前		2					7	2	9						共同		
卒業研究Ⅱ	4後		2					7	2	9						共同		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
養護科目	学校保健 養護概説	2後 2後		2 2		○ ○									兼1 兼1
	小計 (64科目)	—	83	25		—			7	2	9	10	0		
合計 (113科目)		—	124	68		—			7	2	9	10	0		
学位又は称号		学士 (看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<卒業要件> 4年以上在学し、必修124単位、選択8単位を含む132単位以上を修得すること。 <履修方法> 大学共通科目：必須科目15単位＋選択科目5単位 専門科目（基礎分野）：必須科目26単位 専門科目（専門分野）：必須科目83単位＋選択科目3単位(看護の統合と実践の区分より) 履修登録の上限：50単位(年間)ただし、別に定める「保健師科目」「養護教諭科目」は上限設定の50単位の算出には含まない。							1 学年の学期区分		2 期						
							1 学期の授業期間		1 4 週						
							1 時限の授業時間		1 0 0 分						

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部 看護学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学びの基礎	成蹊基礎演習 1	本科目は充実した大学生活をスムーズにスタートさせるための科目である。本学の教育理念を踏まえて4年間の学びを見通すとともに、自らの意思で計画し、考え、行動し学修するために必要な能動的態度について理解を深めて、大学生として一人一人の個性に応じた生活と、自ら学ぶ学習の基本的態度を身につけることを目的とする。	
	成蹊基礎演習 2	大学での学びの基礎として重要な「協働とコミュニケーション」について、体験し学びを深めることを目的とする。前期の「成蹊基礎演習 1」において学んだ「共に学ぶために必要な協力」、「自己理解や他者理解」について様々な社会的かつ看護にも共通する課題等を取り上げて、グループワーク形式の実践を通じて、さらに認識を深める。	
人間と生活・社会の理解 大学共通科目	英語基礎 I	近年、外国人観光客や在留外国人の人口の増加に伴い、看護・医療現場での英語能力の必要性が高まっていることから、英語基礎では、医療系英語の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には基礎医学および看護の実践で使われる機会が多い語彙、例えば解剖学的用語、症状や病名の用語などについて学修する。	
	英語演習 I	本科目は、英語で他者とコミュニケーションをとるために、総合的な4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を向上させることを目的とする。テーマについての知識や語彙だけでなく、英文から情報を読み取る・聞き取るスキルや、わかりやすく伝えるための文法や文章構成などについても学ぶ。「使える英語」の習得を目指して、場面に応じた会話練習や、英語でのスピーチ、プレゼンテーション、文章作成などに取り組む。	
	中国語入門 I	本科目は、中国語の発音の基礎と初級文法を身につけることを目標とする。授業では中国語の発音に重点を置き、徐々に無理なく学習できる範囲で文法事項を学んでいく。発音については、中国語のローマ字を、その起伏のあるアクセントとともに正確に読む練習を行う。文法については、日常生活で用いられるさまざまな中国語表現を例文として用い、基本的な文構造や品詞等について学ぶ。そのほか、ペアやグループでの会話練習も取り入れ、能動的に中国語を学ぶ。	
	フランス語入門 I	本科目は、はじめてフランス語を学ぶ学生が、フランス語に関する基礎知識を身につけることを目標とする。フランスで幅広く受け入れられている日本のポップカルチャー（クール・ジャパン）をテーマに、ビデオを見ながら生きたフランス語を学習する。授業では必要最小限の文法の学習とともに、フランス語の聞き取りや口頭練習なども行う。また随時、プリントやCD、DVDなどを用いて、フランスの文化や歴史、芸術、さらにフランス人の生活についての紹介も行い、フランスへの理解を深めていく。	
外国語	韓国語入門 I	本科目は、はじめて韓国語を学ぶ学生が、韓国語に関する基礎知識（韓国語の文字、基本的な文法・語彙・文章構造）を身につけるとともに簡単な会話ができるようになることを目標とする。イラストと写真が豊富に載せている教科書を使って、会話、文法、単語&表現、読む、話すという総合的能力を高めていくことに重点を置いて講義し、学習者同士がペアワークを通じて会話能力を修得できるようにする。リスニング能力の向上のため講義におけるコミュニケーションの3分の1は韓国語のみで行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学共通科目	人間と生活・社会の理解	人間と文学	本科目は、文学作品を通じて異質な他者を理解し、共感する力を養うことを目標とする。前半は物語の構造を理解し、人物、性格、感情、風景などを描写する技法を学ぶ。後半は、前半に学んだ創作の技法を生かしてフランツ・カフカの小説『変身』を分析し、カフカの他者を見るまなざしの深さを明らかにしていく。最終的に、同作品のオマージュとしての一本の短編小説を完成させる。授業全体を通じて、優れた文学は、私たちに新しいものの見方を与えてくれるものであると実感できるようにしていく。	
		人間と哲学	本科目は、人間とは何かという問題を中心に、徳、幸福、人格の尊厳、共同体、コミュニケーションなどの人間が生きる上での重要な基本問題や、人間の本質的な特性を示す知識や思考の問題について探究し、人間と哲学に関して探求する素養を身につけることを目標とする。様々なテーマにおける哲学的思考を通じて、哲学は、基本的に私たち人間自身や私たちが経験する諸事象についてその根源に遡って思考・理解しようとする、人間や人間の関わる諸事象の本質・根拠を探究する学問であることを理解できるように授業を展開する。	
		人間と芸術	本科目は、絵画、インスタレーション、パフォーマンス・アート、音楽などの様々な芸術形態、ジャンル、スタイルの作品に触れながら、芸術の多様で豊かな展開の背景にある歴史的・社会的背景や、芸術と人間社会の関わりについての理解を深めることを目標とする。芸術と人間社会の関わりを広く俯瞰することで、受講生それぞれの関心に応じた自身の専門的な学修課題との接点を発見し、独自のものの見方を養うことができるように授業を展開する。	
		現代倫理	本科目は、様々な倫理的問題をテーマに取りあげながら、倫理学上の問題を考える上で基礎となるいくつかの立場を概観することで、倫理学の基礎的な知識を修得するとともに、現代に起きている倫理的な問題を伴う事象に対して、倫理的な観点から分析し、考えを深め、自分自身の意見を持つことができるようになることを目標とする。受講者同士のピアレビューも取り入れながら、倫理学の素養を様々な身につけられるように授業を展開する。	
		心理学概論	心のはたらきやしくみを対象とする科学である心理学は、幅広い領域で相互に関連しながら発展している。心理学とは何かを明らかにし、「認知心理学」や「社会心理学」、「発達心理学」、「教育心理学」、「学習心理学」、「臨床心理学」等の様々な領域の心理学の知見に触れることを通じて、心理学が人間や人間の心をどのようにとらえ、どのように研究して明らかにしてきたかを学ぶ。受講者の人間に対する見方を広げ、社会の中で生きる自己への理解を深めていく。	
		カウンセリング理論	カウンセリングの基礎となる理論とコミュニケーションスキルを学び、実際の場面で適切なコミュニケーションができる基礎を作ることを目指す。またカウンセリングは、臨床心理学の考え方を基盤に、他者をどのように理解し、いかに関わるのかを吟味し行われるもので、この学習を通して看護における心理的援助のあり方を考え、看護師としてどのようにカウンセリングを用いることができるかについて考える。	
	国際社会と日本	日本国憲法	本科目は、憲法改正議論が活発化する現代的状況において、政治的・社会的問題に広く関心を持ち、幅広い視野から憲法を吟味できるようにすることを目標とする。日本国憲法の基本構造について、理論的な観点だけでなく、具体的な事例に即して検討する。簡潔で抽象的な憲法の具体的意味内容を探る上での生きた教材として、憲法判例の分析を中心に授業を進めていく。日本国憲法に関する知識を活用して、様々な問題に向き合う姿勢を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学共通科目 人間と生活・社会の理解 国際社会と日本	国際関係論	<p>本科目は、政治学及び法学に関する基礎知識を確認しながら、国際社会や国際協力の現状や課題について考えられるようになることを目標とする。授業内ではさまざまなニュースや新聞などを活用しながら、国家や国際連合、地域的な国際機構・機関（EU、NATO、ASEANなど）や自由貿易協定（FTA）・経済連携協定（EPA）などといった国際社会の仕組みやシステムについて学ぶ。また、それぞれと日本の関わり方や現状について、学生同士が意見を交換しながら、課題を発見したり、自己の理解を深めたりできるようにする。</p>	
	人権と社会	<p>本科目は、近代人権論についての基礎知識を習得するとともに、人権と権力の関係を理解すること、そして現代社会に生じている人権問題に関する意識を高めることを目標とする。社会思想史的な観点を踏まえながら、人権についての基本を学ぶ。具体的には、西洋において人権思想がどのように発展してきたのか、日本においてそれがどのように受容され、展開したのかを学ぶ。また、これと並行して、主に新聞記事を取り上げながら、現代日本における具体的な人権問題について考える。</p>	
	社会学概論	<p>本科目は、私たちにあって身近な学校、家族、職場という集団や、そこにあらわれる人間関係や構造について、社会学の歴史や知見から、アカデミックに読み解くことができるようになることを目標とする。特に、身の回りの日常から研究の課題を見つける方法を学ぶ。また、自我、階級・階層、ジェンダー、エスニシティなど、社会学の基本的な観点についても学ぶ。さらに本授業では、論文を読み説くための社会学の基礎的な知識を紹介することに加えて、社会調査法などについても触れる。</p>	
	現代と社会福祉	<p>本科目は、社会福祉についての基本知識を身につけ、広い視野と関心をもって行動できるようになることを目標とする。そのため、社会福祉の意味、定義、社会福祉の全体像、社会福祉の目的理念と制度実体を概説する。また、現代社会の特徴と人間の生活、生活問題としての福祉問題、社会システムと社会福祉の関係、福祉を形成する原理としての自立や依存、利己性や利他性、社会的連帯などについて考える。また、社会福祉形成の歴史から現代社会福祉の本質を考える。日本の社会福祉の発展史を学ぶことで日本の社会福祉の特徴を理解する。</p>	
	大阪の風土と文化	<p>本科目は、伝統芸能である「落語」を教材に、滑稽なストーリーの底流にある大阪の歴史や文化の実相を探究することを通じて、大阪の風土と文化に関する理解を深めることを目標とする。落語に登場する地名や人名、出来事は、歴史的な事実を踏まえた内容を含んでおり、それらのゆかりの場所を訪ねた記録を基に解説することで、大阪の歴史に親しむ。具体的には、長屋の暮らしを描いた演目からみた「庶民」の生活と、「身分社会」の実相や、米相場をはじめとした大阪の経済発展史、大和川や淀川の付け替えによる治水の記録などに関連付けて解説し、多角的に大阪の文化をとらえる。</p>	
	京都の文化と芸術	<p>本科目は、千年の歴史がはぐくんだ様々な文化遺産を有する京都における伝統と創造のありようを再確認し、現代に残された文化や芸術に対する理解を深めることを目標とする。美術、宗教、文学などの諸分野、それらが複合的に見られる場としての社寺や美術館などについて、毎回テーマを定めて講義を進める。授業で取り上げる複数の社寺・美術館のうちの一つの見学を課題とするなどして、対象に直接ふれる機会も設けていく。</p>	
	ジェンダー論	<p>本科目は、ジェンダーやセクシュアリティに関する基礎的な概念を理解し説明できるようになること、及びそれらの基礎概念を使って具体的な事象について分析できるようになることを目標とする。そのため、私たちが生きていくうえで避けて通ることができない「性」の問題を、ジェンダーという概念を中心にさまざまな角度から考える。具体的には、労働、教育、家族、国家とのつながりを検討する。また、映像作品に見るセクシュアリティの問題や、ジェンダー論の展開についても学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
大学共通科目	科学的思考の基盤	科学と環境	化学	看護師は、医療の現場で多種多様な薬品、材料などの物質を扱う立場にあり、化学の基礎的知識が必要不可欠である。化学は、物質の性質、構造、変化に関する学問である。気体や水溶液について学習し、化学反応や有機化合物の基本的な構造や性質等を学び化学の理解を深める。さらに、人体をはじめとした生体を形成している化学物質についても学習する。	
			生物	看護師として、生命のしくみ、細胞と組織、遺伝と進化など生物学を基盤とする生命科学の知識は必須である。また生物学は、その発展形としての解剖学、組織学、生理学、生化学と密接に繋がっており、さらに微生物学・免疫学、病理学、薬理学などの学問分野の基本である。生命の成り立ちや進化、細胞の成り立ちと活動、生命が連続するしくみ、生命が環境の変化に合わせて生活するしくみについて理解する。	
			生命倫理	現代の医学・医療の発展と価値観の多様化に伴い、様々な生命倫理上の諸問題が発生し、医療者と患者の関係も変化しつつある。これを踏まえて、臨症的な観点から、「生命倫理」について考え、より良い医療および看護を志向する。同時に、日本における医療の歴史や「風土」に根ざした生命観、健康観についても考える。	
			暮らしの科学	本科目は、日々の暮らしの中の「食」の科学に向き合い、私たちは「なぜ・何を・どのように食べるのか」に注目して、暮らしのなかの科学について理解を深めることを目標とする。「食」に関する学術研究の知見に基づいて、私たちヒトの「食」にまつわる心理や行動を科学的に考察していく。また自身の暮らしの中の「食」を振り返り、自身の「食」に対する心理・行動をもとにした考察も展開していく。	
			地球環境問題	本科目は、気候変動（地球温暖化）を中心に、地球環境問題や持続可能な開発目標（SDGs）、大規模災害、公害について理解を深めることを目標とする。現在、気候変動、生物多様性の喪失、オゾン層の劣化、大気汚染といった環境問題が地球規模で発生している。政府、企業、メディア、国際機関、市民社会・NGOといった多様な主体が行動しているが、解決は遠い。単に知識の習得のみをめざすのではなく、複雑な地球環境問題について、信頼できる情報を集め、ニュースを読み解き、多様な価値観に触れ、議論するなかで、考察を深めていく。	
	健康とスポーツ	スポーツ演習Ⅰ	スポーツは人生をより豊かにし、充実したものとする世界共通の人類の文化のひとつである。心身の健全な発達に必要な不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは大きな意義がある。この授業では様々な種目のスポーツを通じて、自身の体力の向上を図るのみならず、ルールを理解と基本的な技術を修得し、ゲームのなかで判断力や協調性といった集団技能を身につけ、スポーツをより楽しむことができるようになることを目的とする。		
		健康科学	スポーツの実践は個人が健康で豊かな社会生活を営む上で極めて重要な要素となっている。スポーツへの参加は社会性・協調性等の人格形成に寄与するのみならず、適度な運動を継続することにより生活習慣病の発症予防や改善が可能であり、心身の健康維持に極めて重要である。本科目では、正常な身体機能とともにスポーツ活動に伴う身体の生理的反応とその意義を講義し、健康の維持・向上のためのスポーツの意義を学習する。また、スポーツに伴う障害や疾病についても講義し、予防や対応の方法も学習する。		
	AI・データリテラシー	AI入門	本科目は、AIによって急速に変容していく社会（いわゆるSociety 5.0）のなかで、私たちの生活の様々な局面において活用されるようになっているAI（人工知能）、ビッグデータへの理解を深めることを目標とする。都市計画、新ビジネス開拓、法制度や倫理的問題への配慮などを取り扱いながら、どのようなデータビジネスが新興しているか、社会の姿はどのように変わりつつあるのか、思想面ではどのような変化があるのかについて、考察していく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学共通科目	A I・データリテラシー	統計学基礎	数理・データサイエンス・A I教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムに基づき、社会における統計学の役割を理解し、統計学を通じてデータサイエンスを行う基礎となる知識を獲得する。本授業では、データの要約や視覚化、相関と因果、回帰を取り上げる。さらに、統計的推定・検定の基礎となる具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知り、データの分析結果を批判的に見る目を養う。
		統計学実践	本科目は、表計算ソフトMicrosoft Excelを用いた演習を通じて、「統計学基礎」で獲得したデータサイエンスの知識や日常生活に欠かせない統計学を実践的に理解し、様々なデータに応用できるようになることを目標とする。さらに、Excelを用いてデータを分析する際に非常に強力な手段となりうるVBA（Visual Basic for Applications）を用いてプログラミングの基本的な概要についても講述しながら、プログラミング演習も行う。これは、将来的に他のプログラミング言語を用いてデータ分析を行う際の橋渡しともなる。
		情報リテラシー1	本科目は、本学の学びにおいて必要不可欠なコンピュータスキルの基本を身につけることを目的とする。基本的には、Windowsパソコンの基本操作、インターネット検索の方法、電子メールを使った文書のやり取り、電子メールやSNSでのマナー、及び、文書作成ソフトを使った文書表現、表計算ソフトを使ったデータの分析・整理、Microsoft Officeのツールハンドリングについて学ぶ。Microsoft Office Excelを使用して実用の場面に利用できる力を養う。
		情報リテラシー2	本科目は、大学での学びにおいて必要不可欠な情報を活用する基本的なスキルを身につけることを目的とする。具体的には、課題解決に必要な情報を収集し、収集した情報を課題解決に向けて適切に加工して解決案を作成する。そして、作成した解決案を分かりやすく伝達するといった一連の活動を、コンピュータとインターネット（ICT）を使って行えるようする。授業では、具体的な演習課題を通して、この一連の情報活用能力を身につける。
専門科目（基礎分野）	人体の構造と機能	人体の構造と機能 I	疾病の成り立ちを知る上での前提となる正常な人体の構造と機能について、基本的な理解を深めることを目的とする。様々な健康課題を持つ人への看護支援を展開するうえでの基盤となる細胞と組織、生体リズムと内部環境の恒常性や、神経系、運動器系、感覚器系、循環器系（心臓、血管系、リンパ系）の構造と機能について学修する。
		人体の構造と機能 II	人体の各器官が正常に機能するために、血液（成分と機能）、体液の構成と調節、生体の防御機構を理解することを目的とする。様々な健康課題を持つ人への看護支援を展開するうえでの基盤となる呼吸器系、消化器系、代謝系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系などの構造と機能を理解し、各機関相互の連携と異常がもたらす病的状態について学修する。
		病理学	本科目は、看護支援を実践するための患者の病態を理解するための基盤となる疾病の原因と成り立ちについて、基本的な知識を学び理解を深めることを目的とする。具体的には、病理診断の実際や、細胞と組織の障害と修復および循環障害、炎症と免疫、感染症、代謝障害と老化、先天異常と腫瘍について学修する。
		生化学	本科目は、看護支援を行う上で様々な健康課題を持つ人への看護ケアを展開するうえでの基盤となる必要な生命現象について理解を深めることを目的とし、物理化学的視点から解明することを目的とする。具体的には、生体分子とその退社制御機構のしくみ、生体の恒常性の維持メカニズムとその破綻が招く疾病の発生の仕組みについて学修する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人体の構造と機能	薬理学	<p>(概要) 本科目では、総論において薬理学の概念、薬物の生体内動態、薬物の作用点・作用機序・相互作用などについて学ぶことを目的とする。また、各論では各病態に対する薬物(末梢神経作用薬、循環器作用薬、中枢神経作用薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、呼吸器作用薬、消化器作用薬等)の作用機序・副作用などについて学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(54. 矢部 千尋/5回) 総論、末梢神経作用薬など (53. 植田 弘師/4回) 中枢神経作用薬、抗炎症薬・抗アレルギー薬など (55. 中田 徹男/5回) 循環器作用薬、呼吸器作用薬など</p>	オムニバス	
	病原微生物と感染	<p>抗生物質開発以前は主要死因の1つであった感染症、インフルエンザウイルス感染や最近では新型コロナウイルス感染症のパンデミックがある。病原微生物と感染では、その感染症の原因となる微生物に対する防御機構である免疫、特に臨床看護で遭遇する自己免疫疾患、膠原病などについて基礎的な知識を理解し学修することを目的とする。</p>		
	栄養学	<p>本科目は、人の食事と栄養問題について学習し、問題解決のために必要な栄養学の基礎および臨床栄養(病院食、疾患別の食事療法等)の基本について学ぶことを目的とする。具体的には、栄養状態の評価とその方法、栄養素の種類と働き、栄養素の消化及び吸収、体内代謝、ライフステージごとの栄養問題と対応方法、食品学の総論などについて学修を深める。</p>		
専門科目(基礎分野)	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療論Ⅰ	<p>基本的な病因とその成り立ちについて、疾病概念と診断・治療の概要を系統別に学習する。主に消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器系等代表的な疾病を理解し、疾病に対する診断・治療について基本的な知識を学習する。また、健康の維持増進のための疾病の予防と早期発見、疾病の要因と生体の回復について基本的な理解を深める。</p>	
		疾病治療論Ⅱ	<p>外科的な病因とその成り立ちについて、疾病概念と診断・治療の概要を系統別に学習する。血液・腎泌尿器疾患感染症等疾患の症状、診断に必要な検査及び治療について学ぶ。また、身体の機能や運動のもととなる神経・筋・骨格感覚器の病態、診断、症状や治療方法等について理解する。さらに、運動器疾患、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科疾患についても学ぶ。</p>	
		疾病治療論Ⅲ	<p>精神障害である総合失調症、うつ病、アルコール障害、認知症、心身症、ストレス関連障害等の精神・心身の疾患の病態と診断および治療について学ぶ。また、小児・青年期の精神・心身医学的疾患、成人の人格・行動障害についても学習する。さらに、神経系疾患を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療方法等について理解する。</p>	
	疾病治療論Ⅳ	<p>(概要) 産科及び婦人科系疾患と小児科疾患についての基本的な知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全7回) (74. 西山理恵/3回) 産婦人科系疾患の総論として、生殖器系の疾患の病態と診断・治療について、女性生殖器、乳腺の疾患を学ぶ。 (57. 川村智行/4回) 小児系疾患について、そのメカニズムを理解し、主な疾患の検査、診断、治療について学修する。</p>	オムニバス	
	発達心理学	<p>本科目は、人間の生涯にわたる発達について学び、さらに子供の成長と発達(身体的機能、認知機能、情報と社会性)を理解を深めることを目的とする。また、医療領域における患者の心理について学ぶとともに、成長・発達に応じた子供に特有な疾患、発達障害、心理学的アプローチと発達障害支援の実際について学びを深める。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目（基礎分野）	健康支援と社会保障制度	疫学・保健統計学	本科目は、人間集団における健康事象を観察し、その発生要因を理解するとともに促進する要因、抑制する要因について学習し、健康問題解決の方法論について学修することを目的とする。具体的には、疫学で用いられる指標、保健統計調査とデータおよび統計学的方法とその解釈、バイアスと行楽要因、スクリーニングを学び、生活習慣病について関連勝因と具体的な支援について考える。	
		公衆衛生学	本科目は、様々な健康課題を持つ人への看護支援を展開するうえでの基盤となり、疾病予防と健康寿命の延長を目指した疾病の予防と制度について学修を深めることを目的とする。身体的、精神的、社会的健康の増進を進めるために、人間集団を対象とした環境整備、疾病の予防、健康の保持増進を図る施策や制度及び展開について学修する。	
		社会福祉と社会保障	(概要) 本科目は、社会福祉の理念と社会保障制度について学修することを目的とする。 (オムニバス方式／全14回) (52. 上掛利博／7回) 歴史とその展開の変遷から社会福祉の考え方を学び、現代社会が抱える様々な社会問題と福祉のあるべき姿について考察する。 (44. 山岡 淳／7回) 社会福祉制度と法体系について学ぶとともに、その背景と社会福祉の財政について理解を深める。また、社会福祉の場で働く専門職の役割と地域のボランティアとの連携を学び、現代の社会福祉が抱える課題について考察する。	オムニバス
		保健医療福祉行政論	本科目は、ますます複雑、多様化してきている、わたしたちの日常生活を取り巻く公衆衛生上の多くの課題を解決するために施行されている法律と、それを根拠として実施されている行政の働きについて講義する。また、これらを可能とする財政の仕組みなどについて、主に保健と医療に関わる分野を中心に講義する。	
専門科目（専門分野）	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	本科目は、人間科学、看護科学を基盤とした看護実践を中核概念に据え、看護の基本原理や看護の学問的な追究方法、また看護実践の基礎となる知識や技術など、看護学の骨格を体系化していくことを目指す。具体的には、看護の意味、および看護における科学という立場を探究し、その学問的特徴を理解する。さらに看護独自の機能、看護職の責務と可能性について学ぶ。	
		看護学概論Ⅱ	本科目では、看護実践の基礎となる理論や看護理論の学習を通して看護学における理論のもつ意味を思考する。理論と実践の関係について考え、その活用の可能性について検討する。さらにこの学習を通して自らの看護学への探求姿勢や看護観を養う。	
		基礎看護学方法論Ⅰ	看護学概論Ⅰを踏まえて看護における技術の意味と特性を理解し、看護技術の基本となる『感染予防』の技術、『活動と休息』『生活環境の調整』の援助技術の科学的根拠とその具体的方法について学習する。	共同 演習 45時間 講義 45時間
		基礎看護学方法論Ⅱ	基礎看護学方法論Ⅰで学んだ看護技術の原則を踏まえて、対象者の健康状態を理解するための基本技術である『観察』『バイタルサイン』の技術および対象者の健康を促進するための日常生活の援助である『清潔』『排泄』に関する援助技術の科学的根拠とその具体的方法について学習する。	共同 演習 71時間 講義 19時間
		基礎看護学方法論Ⅰ、Ⅱで学んだ看護技術の原則と援助の具体的方法を踏まえて、対象者の健康を促進するため必要な日常生活の基本となる、『栄養と代謝』に関する援助技術の科学的根拠とその具体的方法について理解し、事例の対象者に対し、必要な援助をアセスメント、実践、評価の過程を学習する。さらに診療の補助業務である、検査や処置を受ける対象者への援助技術、および治療に関わる援助技術の科学的根拠とその具体的方法について学習する。	共同 演習 58時間 講義 32時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎看護学	基礎看護学方法論Ⅳ	本科目では、問題解決思考および関係論的視点から、看護を实践するための方法論として看護過程を学ぶ。主に問題解決論的思考を育成するために、情報収集～アセスメント～評価までの一連のプロセスを、事例を用いて学ぶ。また有効な看護実践のためには、それぞれのステップにおける精度の高い判断力が必要であることを理解する。さらに、情報収集として、対象者の健康や健康障害の観察方法と判断基準を学び、健康状態のアセスメント技術と態度を学ぶことで、入院時の観察や問診の方法を習得する。	共同 演習 51時間 講義 39時間
	基礎看護学実習Ⅰ	看護が提供されている場と看護職の役割を学習する。また、病いや加齢による健康上の問題のために、生活に支障がある人に直接関わり、対象を「生活者」として理解する。さらに、対象者の生活の場を知り、看護実践の共有・体験を通して、看護援助のありかたを知る。さらに、援助者関係の最も基本である対象者への関心や、相互の人間関係を体験し、考察する。	共同
	基礎看護学実習Ⅱ	健康上の問題を持ち生活に支障がある人を受け持ち、対象者との発展的な関係性を通して、対象者のニーズを知り、よりよい健康状態の促進を目的とした基本的な看護を实践する。特に、対象者に必要な生活行動の援助を看護援助の展開プロセスを通して考え、実施、評価、考察する。	共同
専門科目（専門分野） 成人看護学	成人看護学概論	成人看護学の基盤となる主要概念と人間のライフサイクル、成人期にある人の特徴、取り巻く環境と健康・疾病との関係を学ぶ。さらに成人期にある人の成長・発達、適応を促す看護の基盤となる諸理論や援助方法を学ぶ。健康に障害をもつ成人期にある人の看護を实践するために、成人期の変動する大人の姿を生涯発達論や他者との相互性、生活や仕事といった概念から捉え、看護専門職としての自己の課題について考察する。	
	成人看護学援助論Ⅰ	成人看護学概論での学びを基盤として、手術を受ける患者および危機的状況にある患者とその家族の特徴を理解し支援するために、基盤となる概念や諸理論を学ぶ。また、健康状態が急変し、生命の危機状態にある成人期の人々の身体・心理・社会的特徴、家族を含めた健康課題やニーズ、手術侵襲による生体反応と術後合併症、周手術期（術前・術中・術後）に必要な基本的な看護援助と麻酔・手術方法に対応した回復・適応を促す看護援助、周手術期における保健・医療・福祉の連携について学ぶ。また、クリティカルな状況にある患者とその家族の特徴およびその看護について学ぶ。	共同
	成人看護学援助論Ⅱ	成人看護学概論での学びを基盤として、慢性病とともに生きる患者とその家族の特徴を理解し支援するために、基盤となる概念や諸理論を学ぶ。また、患者が病気をマネジメントしながらその人らしく生活するための支援に必要な基礎知識や、利用可能な医療・保健・福祉サービスについて学ぶ。	共同
	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学援助論Ⅰで学んだことを基礎に、演習を通して様々な臨床の状況に応じた知識や看護技術を、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力の習得を目指す。本科目では、事前学習課題を提示し、その理解を前提として演習を進める。また事後学習課題も提示し、演習で学んだ知識・技術について定着できるようにする。講義担当教員全員が看護職者の臨床経験を持ち、各演習で学生が具体的なイメージをえがけるよう教育を行う。また、事例検討を通して、手術看護の實踐に必要な課題発見力、論理的思考力、問題解決能力を養う。	共同
	成人看護学方法論Ⅱ	成人看護学援助論Ⅱで学んだことを基礎に、演習を通して様々な臨床の状況に応じた知識や看護技術を、看護師役割と患者役割を体験しながら学び、応用できる能力の習得を目指す。本科目では、事前学習課題を提示し、その理解を前提として演習を進める。また事後学習課題も提示し、演習で学んだ知識・技術について定着できるようにする。講義担当教員全員が看護職者の臨床経験を持ち、各演習で学生が具体的なイメージをえがけるよう教育を行う。また、事例検討を通して、慢性疾患看護の實踐に必要な課題発見力、論理的思考力、問題解決能力を養う。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	手術を受ける患者・家族が危機状況を乗り越え、治療や症状によってもたらされる心身への侵襲から速やかに回復し、セルフケア能力を發揮できるように援助するための知識・技術、態度を学ぶ。具体的には、患者を受け持ち、看護過程を展開する中で、周術期にある患者およびその家族の発達段階の特徴を踏まえ、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、各期に応じた看護を実践していく。	共同
	成人看護学実習Ⅱ	急性増悪して入院している慢性病患者、診断・治療を受けるために入院しているがん患者が治療や症状によってもたらされる身体的・心理的・社会的苦痛から速やかに回復し、セルフケア能力を發揮してその人らしく生きることができるよう援助するための知識・技術、態度を学ぶ。具体的には、患者を受け持ち、看護過程を展開する中で、慢性病・がんとともに生きる患者およびその家族の発達段階の特徴を踏まえ、身体的・心理的・社会的に統合して理解し、その人らしく生きることができるよう、健康レベルに合わせて支援していく。	共同
専門科目（専門分野） 老年看護学	老年看護学概論	老年看護の理念や目標を学び、老年看護を实践するうえで必要となる基本的な知識を修得する。また、老年期の特徴、加齢に伴う心身の諸機能の変化と生活への影響を理解すると共に、対象者の多様性や長年の生活史で培った価値観を尊重した看護援助を行うことの重要性を学修し、自己の倫理観を高める。さらに、超高齢社会において老年期を生きる人々の健康の維持・増進と、Quality of life (QOL)の維持・向上を目指した看護の役割・機能、多職種連携及び地域包括ケアシステムの在り方について、考察する。	
	老年看護学援助論	高齢者を取り巻く環境を理解し、高齢者の身体、心理、社会的機能の特性をふまえ、老年期に起こりやすい代表的な障害や健康問題とその看護援助について学修する。特に障害や疾病が高齢者の生活に及ぼす影響を理解したうえで、多様な背景を持つ高齢者本人とその家族の生活の質 (Quality of life) の維持・向上を考えた援助方法や自立支援の方法について学修を深める。また、日常生活面から疾病予防や介護予防などの“予防の視点”を持ち、様々な環境下で高齢者とその家族に適した日常生活援助の方法について、考察する。	共同
	老年看護学援助方法論	高齢者への看護過程の展開に必要な既習の知識と技術を統合し、個人及びグループワークなどの演習を中心にして学内で具体的かつ実践的な援助方法を学修する。紙上事例からは、老年期に起こりやすい健康問題のアセスメント、看護計画立案の知識と技術を修得し、個別性に基づいた看護過程を展開できる能力を養う。また、高齢者とその家族の健康回復と日常生活機能を整えるために必要な援助、コミュニケーションの方法、生きがいへの援助など基礎的な看護技術の演習を行う。さらに、高齢者の人生の最終段階における医療とケアのあり方について討議し、考察する。	共同
	老年看護学実習	対象者の加齢に伴う心身の変化や健康障害、これまでに歩んできた人生、家族関係、地域社会での役割などを含めた包括的なアセスメントを通して高齢者の理解を深める。併せて、高齢者とその家族のアセスメント、看護援助の計画・実施・評価の一連の過程を通して、高齢者看護の実際を学ぶ。また、地域や介護保険施設で生活している高齢者（要介護高齢者）の健康問題、生活障害、精神症状などの理解を深め、高齢者やその家族の意思や自立を尊重した具体的な援助ができる能力を養う。さらに、地域包括ケアシステムにおける社会資源の活用及び多職種連携を見学・体験することにより、老年看護の専門性や看護職の役割を学ぶ。	共同
地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	地域の様々な場で疾病や障害をもちながら暮らす在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、対象者の自己決定、自立・自律支援に基づくQOLの維持・向上のための地域・在宅看護の展開方法について学修する。地域・在宅看護の歴史、地域・在宅での看護が必要とされる社会的な背景をふまえ、地域・在宅看護の概念、目標、対象者・活動の場、活動方法・内容及びその特徴について理解する。さらに、人生100年時代に在宅療養者とその家族の生活を支えるために必要となる法律・制度・社会資源について理解を深め、多職種連携・協働、ケアマネジメントをとらえて看護を学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目（専門分野）	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学 援助論	地域・在宅看護の対象者である在宅療養者・要介護者等とその家族に対する理解を深め、対象者の生活の質（Quality of life）の維持・向上のためのアセスメントおよび社会資源の活用を含む基本的な知識と支援技術を修得する。特に食事・栄養、排泄、清潔・整容、移動等の日常生活行動の支援と、服薬管理、在宅酸素療法、経管栄養、ストーマ等の医療的ケアに必要な看護技術について学修し、在宅療養者・要介護者等とその家族の望みや希望を捉えたうえで、対象者の強みを活用した看護援助について考える能力を養う。	共同
		地域・在宅看護学 援助方法論	在宅療養者・要介護者等とその家族の特性をふまえ、対象者の生活の場で必要となる在宅看護の知識・技術、看護過程の展開について講義・演習をとおして学修する。在宅療養者とその家族の尊厳を守り、自立・自律を促すとともにQOL（Quality of life）の維持・向上に向けた具体的な社会資源の活用と多職種連携における看護の役割を学ぶ。また、対象別の紙上事例を用い、個人及びグループワークによって実践的な援助方法を修得する。さらに、在宅療養者・要介護者とその家族の望みや希望を捉えたうえで、健康課題のアセスメントを行い対象者の強みを活用した援助について考える能力を養う。	共同
		地域・在宅看護学 実習	訪問看護ステーションでの実習を通して、地域で生活している在宅療養者・要介護者とその家族に対する理解を深める。対象者を包括的にアセスメントし対象者の特性に応じた看護計画を立案・実施することにより、看護実践のために必要な能力と態度を養う。また、対象者が生活している地域のケアシステムや保健医療福祉の社会資源について理解を深め、関係機関・職種と連携・協働した看護実践の方法を学ぶ。さらに、学生が担当した対象者が、地域で生活し続けるために必要となるケアシステムや社会資源、看護師の役割・機能について考察する。	共同
	精神看護学	精神看護学概論	精神看護学をとりまく環境と社会的・医療的課題とニーズ、精神保健福祉制度と地域の精神保健福祉活動について理解を深める。自我の成長発達と心の仕組み・自我機能を理解し、人の心理社会的反応の主要概念を学習する。精神看護の主な理論とモデル、人間関係における主要概念を理解し、精神看護の役割と機能を考える。	
		精神看護学援助論	人を援助する根拠となる理論と人間関係における主要概念を理解し、臨地における精神看護援助の基礎を学習する。特に人間関係における自己理解と他者理解、援助関係における看護師の基本姿勢と態度について学習を深める。さらに、疾患が患者および家族に及ぼす影響を理解し、信頼関係や治療的関係の形成に必要な受容・共感的コミュニケーションを講義演習を通して学習する。	共同
		精神看護学援助方法論	精神障害の経過（急性期、入院・退院、回復期、慢性期）に伴う看護を学ぶと共に、精神科における主な治療法と看護の役割について学習を深める。また、精神障害者の社会参加支援と精神科リハビリテーションについて、精神保健医療福祉の法制度の変遷から理解する。さらに、精神障害者のケーススタディ（看護過程展開）を視聴覚機器を用いて実施する。	共同
		精神看護学実習	精神看護学で学んだ知識、技術と看護師の態度を統合させて、精神機能に障がいを持つ人と家族を理解し、個別的な看護を実践できる基礎的能力を養うために、実習を通して体験的に学習する。精神健康上の困難を抱える患者を1名を受け持ち、日常生活支援にかかわりながら、対象者及び家族をとりまく環境を理解し、援助計画を立案する。その計画に基づき、ケアを実践していく。また、対象者との関係性の構築を通して、自己理解を深めていく。	共同
	母性看護学	母性看護学概論	周産期の対象とその家族の生活・健康・安全について、また看護の概念について考え、ケアを提供することの意味を探究する。また、母性看護学の歴史と役割や責務・機能とこれからの可能性について考え、保健医療福祉の分野や性と生殖の課題について看護職の果たす役割の理解を深める。さらに、周産期の対象の身体的や心理社会的変化、その取り巻く環境について理解し、母子を中心とした子育てへの看護援助について理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
母性看護学	母性看護学援助論	周産期の女性と子ども、そのパートナーを中心とした家族の健康が焦点となることを理解する。対象となる女性の妊娠・出産・産褥・育児期の身体的、心理・社会的変化、新生児についても身体的適応を理解し、それに伴う生活への適応を理解する。そして対象の健康課題の解決や健康増進、予防的看護援助を展開できるための根拠となる基礎的な知識を学修する。	共同
	母性看護学援助方法論	妊産褥婦と新生児の身体的、心理社会的特徴を基本とした上で、対象を個別に理解するための情報を収集するための母性看護学における基本的な看護技術（健康診査と健康増進や予防的看護技術）を学修する。また、事例に寄り添った情報や健康課題の分析、それに基づく援助の立案とそれに対する評価方法について学修する。さらに、妊娠・分娩・産褥期、新生児期の正常からの逸脱事例への看護援助についても学修する。	共同
	母性看護学実習	周産期にある事例を受け持ち、妊娠・分娩・産褥期にある母親・子ども・父親/パートナーとその家族の健康問題を、ライフサイクルの視点と社会生活を営む人としての視点から理解する。その理解に基づき対象の価値観を尊重し、安全なケアとなる根拠を示すと共に保証し、対象のセルフケア能力をより高める個別の援助を実施、評価し考察する。また、地域で生活している母子に対する健康課題についても同様に考察する。	共同
小児看護学	小児看護学概論	子どもを取り巻く急速な環境変化の中で、次世代を担う子どもが健やかに心と身体を育むことができるよう、看護の視点から支援するための基礎となる考え方を学修する。子どもの権利、子どもの身体的・心理的・社会的特徴を理解し、子どもの全体像を捉える。また、病気・障がいをもつ子どもや家族の特徴、看護の役割を学ぶ。さらに、入院・外来・在宅など、子どもを取り巻く環境や生活の場、小児保健の在り方や社会資源を活用することの理解を深める。	
	小児看護学援助論	健康課題・障害および入院が、子どもと家族に及ぼす身体的・心理的・社会的影響を理解する。また、発達段階により子どもが陥りやすい健康課題（症状）・障害の経過の特徴を踏まえたアセスメントの視点、発達段階に応じた看護の方法、診療に伴う援助技術を学修する。	共同
	小児看護学援助方法論	成長・発達途上である子どもが、健康課題や障害を抱えることの身体的・心理的・社会的な影響を踏まえ、子どもとその家族の尊厳および子どもの個性と発達段階に応じた看護援助を行うための方法を学修する。	共同
	小児看護学実習	健康課題や障害により入院を余儀なくされている子どもを受け持ち、子どもと家族の尊厳および子どもの特徴と発達段階に応じた看護を学修する。これまで学修した内容を基に、子どもと家族に関するアセスメントによりケアプランの立案、安全な看護の実施、ケアの評価を行い看護実践を学ぶ。また、子どもやその家族を支援する医療チームの連携を学び、多職種連携の重要性と看護師の役割を学修する。	共同
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	本科目では、健康の概念を学ぶとともに、公衆衛生看護の歴史と現状の課題と保健師の役割について学ぶ。対象となる地域で生活する人々（個人、家族、集団、地域）の特徴と健康の維持・増進、在宅で疾病を持つ様々な世代の人々の生活と支援体制について学修する。他に、活動の場（学校、産業）の健康課題を考え、その支援について学修する。	
	健康教育論	本科目では、公衆衛生看護の目的・目標を実現するために、保健師が地域で生活する個人・家族・集団を対象に用いる技術について学修する。具体的には、地域の特定集団を対象に展開する健康教育について、対象把握から支援の計画・実施・評価の一連のプロセスと方法を理解する。具体的な事例の展開について演習を行い、保健師が地域で生活する個人・家族・集団を対象に用いる技術の特徴と方法について考察する。	共同 講義 64時間 演習 26時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目（専門分野）	公衆衛生看護学	公衆衛生看護管理論	本科目では、保健及び地域施策の視点から、地域社会の健康を高める支援の必要性と地域保健管理についての理解を深めることを目的とする。危機管理関連の際の保健師の役割について学習する。さらに、施策の概要と組織および仕組みと地域の人及び社会資源のマネジメント、地域診断と事業評価について考える。	共同
		家族相談援助論	本科目では、家族をひとつのケアの対象として援助する家族看護では、家族一人ひとりの生活の質の向上を目指すことを学修する。家族自らが健康問題を解決し、健康的な家族生活を送ることができるように介入する。具体的には、家族看護の歴史や家族の概念、家族と文化・社会的背景等を学修し、家族の構造的アプローチをはじめ、家族アセスメント、家族ストレス理論などの諸理論を基に、家族の看護過程を事例をもとに展開し、家族看護に必要な支援方法を学修する。	共同
		公衆衛生看護活動論	本科目では、地域に生活する個人・家族・集団・組織の諸条件を踏まえ、乳幼児から高齢期に至る発達段階に応じた母子および成人・高齢者への保健福祉活動や障害者から精神保健、難病保健、感染症保健等の健康課題の特性に応じたそれぞれの保健活動について学修し、方法論を学ぶ。それぞれの活動における保健師の役割について考察する。また、地域の健康活動に必要な職種間連携や健康支援に必要な制度や社会資源について学修する。	共同
		地域看護診断学Ⅰ	本科目では、公衆衛生看護活動における対象を地域とした場合の健康のとらえ方について学修する。地域の健康課題を見出すための情報とは何かを理解し、量的情報と質的情報を集める方法を理解し整理して、健康課題を抽出する方法を学ぶ。	共同 講義 64時間 演習 26時間
		地域看護診断学Ⅱ	本科目では、公衆衛生看護活動における地域を対象とした健康について学修します。地域の健康課題を見出すための情報（量的情報と質的情報）を整理して健康課題を抽出し、公衆衛生看護活動の計画立案、展開、評価のプロセスとPDCAサイクルについて学修します。	共同 講義 64時間 演習 26時間
		公衆衛生看護学演習	本科目では、公衆衛生看護の目的・目標を実現するために、保健師が人々の生活基盤である地域全体を対象として捉え活動を展開する一連のプロセスと方法について学修する。具体的には、実習予定地域を用いて、地域診断プロセスに則って地域の生活環境や生活実態、健康状態に関する情報を収集し・分析し、地域住民の健康問題を明らかにし、健康問題の改善に向けて必要な活動計画と評価方法を立案する演習を行う。地域診断に基づくPDCAサイクルによって進められ、らせん状に繰り返されていく公衆衛生看護活動の特徴と方法を理解する。	共同
	公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学実習では、保健所や市町村で行われる公衆衛生看護活動の体験を通して、地域の特性を把握し居住する人々の生活実態（生活背景、家族関係、社会的立場を含めて）と健康問題を理解する。また、公衆衛生看護学の基礎的知識・技術を実際に活用し、地域住民の健康水準の向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法を学ぶ。これらを通して公衆衛生看護の理念と役割を理解する。また、学校保健では高校の生徒の学校生活を対象として行われている学校保健活動を理解し、健全な学校生活を支えるために必要な看護職者（養護教諭）の役割と機能を学び、産業保健では、健康レベルの異なる労働者を対象として、健康保持増進のために行われている産業保健活動と企業における保健師の役割を学修する。	共同	
看護実践の統合と	地域健康探索論Ⅰ	本科目では、看護の対象となる人々の様々な暮らしをイメージし、各世代の健康意識や関連する環境や資源、健康と健康に影響する要因とは何かについて学ぶ。各世代の人々の生活の様子と属する学校や行政、利用する施設、病院やクリニックなどの医療関連の施設や地域社会の様々な施設について、地域を診て情報を整理する枠組みについて学修する。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目(専門分野)	看護の統合と実践	地域健康探索論Ⅱ	本科目では、看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康との関連について考える。また、実際にフィールドワークをして、地域を診るための枠組みをもとに地域の情報を整理し、地域に暮らす人々の生活と健康な生活に影響を及ぼす要因について考える。	共同
		地域健康探索展開論	本科目では、3年生の臨地実習での学びを元に、看護の対象となる各世代の人々の様々な暮らしと健康との関連について考える。グループごとに各ライフステージのひとつを選択して、その世代の対象者と家族を含んだ健康意識と健康行動を検討し、主な健康課題について考える。また、健康課題に関連する環境や、国の施策や支援体制について理解し、今後の課題と看護職者の役割について考察する。	共同
		国際看護論	グローバル化によって社会的動向が変化し、多様性をもつ対象への理解とグローバル社会への適応力が看護に求められている。日本もすでに国際化した社会となり、地域医療においても国際看護の視点が必要となっている。本科目では、看護の対象をグローバルに捉え、地球規模で人々の健康をとりまく保健医療の現状や課題、関連する要因について学び、諸外国(日本を含む)の文化の特性と、多文化が共生する社会における看護について理解を深める。グローバルな看護の実際を理解し、国際看護の役割を学修する。	
		災害看護論	本科目は、健康危機管理の概念と災害および災害看護についての基礎的知識を学ぶことを目的とする。具体的には、災害の分類と特徴や、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、発災時から応急対策期、災害復旧・復興対策期等の災害サイクル各期における看護の果たす役割について学ぶと共に、災害予防と事前対策について学修する。	
		地域包括ケア論	本科目は、地域包括ケアシステムが必要とされる社会的背景と必要性および変遷について学ぶことを目的とする。長寿社会において地域住民に求められる自助、互助、共助、公助を含む地域包括ケアシステムの概念と必要性について理解し、在宅の現場で多様な活動形態をもつ実際について学修を深める。	共同
		多職種連携 チームケア論	本科目は、長寿社会の変化する保健医療福祉システムを理解するとともに、看護職に求められる機能と役割および他の専門職の機能と役割を理解することを目的とする。具体的には、看護職および他職種と関連する多機関や他施設との連携とチームケアと問題解決のための連携の必要性と方法について学修する。 (オムニバス方式/全7回) (1. 星野明子/2回) 長寿社会の変化する健康課題と保健医療福祉システムについて (①. 矢野芳美/1回) 小児科病棟におけるチーム医療と多職種連携、在宅医療ケア児への支援と多職種連携について (11. 来栖清美/1回) 精神疾患患者への多職種連携支援と看護師の役割について (32. 羽藤文彦/1回) チーム医療の概念と歴史、およびチーム医療の意義について (68. 井ノ上恭子/1回) 病棟におけるチーム医療と多職種連携、栄養士の役割について (65. 重浦万里/1回) 在宅看護支援における多職種連携について	オムニバス
		ウィメンズヘルス論	女性の健康問題を身体的・精神的・社会的な観点から幅広く学習する。現在の女性の状況を理解し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方をもとに今後の女性のヘルスサービスやエンパワーメントについて考える。具体的には、女性と子どもの健康状態の国際比較、女性の性と生殖にかかわる解剖・生理、女性のライフサイクル、母子保健に関する法制度、生殖医療をめぐる倫理的問題等を取り上げ、女性と家族の健康支援に関する看護の役割を考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目（専門分野）	看護の統合と実践	がん看護学	本科目では、がんとともに生きる人とその家族を支える看護に必要な基礎知識や諸理論（Total Pain、悲嘆、がんサバイバーなどの概念など）を理解し、患者や家族ががんおよびがん治療による影響をマネジメントしながらその人らしく生活するための支援について学ぶ。また、わが国および大阪府のがん対策、がんチーム医療のなかでの看護の看護の役割について考察する。	
		緩和ケア論	本科目では、緩和ケアの歴史の変遷や主要概念（緩和ケア、ターミナルケア、End of Life Careなど）を理解し、Advance Care Planning (ACP)における看護、慢性疾患やがんとともに生きる人とその家族を支える看護、さまざまなライフステージにある終末期患者とその家族の看護に関する基礎知識を学ぶことで、自己の看護観を深める。	
		看護教育学	本科目では、看護教育を取り巻く社会の動向から看護教育の過去・現在・未来を見つめ、現在の看護教育の課題について考察する。看護教育の特徴、看護教育の変遷、看護教育におけるカリキュラム、看護教育における倫理、看護継続教育について講義を行う。本学での教育を振り返り、看護教育における課題について取り上げる。	
		看護倫理	本科目では、生命倫理、看護倫理の基礎理論の基本的概念および、看護専門職者としての社会的倫理的責任や倫理的意思決定のための具体的方法について学ぶ。さらに、医療における倫理的課題を考察する。倫理的意思決定モデルを活用し、実際に臨地実習の場面であった事例を通して分析・プレゼンテーションし、その後全体討議を行う。	
		看護マネジメント論	本科目は、科学的根拠に基づく安全性の高い医療を提供するための組織のありかたとその運営と管理、チーム医療における看護師の役割を学ぶ。さらに、自己のキャリア開発、自己管理の方法と実践について学習する。	
		精神保健論	本科目では、精神障害者が地域で暮らすために必要な「社会参加、医療福祉、住居、人的サポート」などの保健医療福祉資源の種類と活用について理解し、精神障害者の社会参加のあり方や自立支援について考える。	
		地域健康探索論演習	本科目では、地域健康探索論Ⅰ、Ⅱの学びをもとに、看護の対象となる人々の様々な暮らしと健康について学びを深めていく。実際に地域の人々との交流体験（自治会、シニアクラブ、住民社協など）をとおし、地域に暮らす人々の生活と健康、生活に影響を及ぼす要因と看護支援について考える。	共同
		看護の統合と実践実習	本科目は、これまでに学修した知識、技術、態度を統合し、地域で暮らす人々を全体論的にとらえて、看護における総合的な実践能力を高めて看護実践を展開することができることを目標とします。様々な看護実践場面の現象を倫理的視点から捉えて、保健・医療・福祉他のチームアプローチの必要性と地域包括ケアシステムを理解し、多職種と連携した看護支援について考察する。また、統合と実践の実習体験等から、個人や組織における看護マネジメントの展開について考察する。	共同
		卒業研究Ⅰ	本科目では、看護専門領域の実習と学修体験を元に、関心のある看護現象をとらえていく。さらに、関心のある看護現象に関連する文献を集めて、看護論文等を批判的に読むプロセスを学修する。また、グループに分かれて、研究テーマを設定し、看護研究計画を作成して発表する。	共同
卒業研究Ⅱ	本科目では、自身の研究テーマを設定した看護研究計画（案）をもとに、文献検討を重ねて看護研究計画を完成させる。また、研究における倫理的配慮について考慮すべきことを理解し、調査の実施、分析、考察などの研究過程を通して、論理的思考力と論文構成と記述力を学修する。また、研究成果を発表することによって、プレゼンテーション能力を身に着ける。	共同		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
養護科目	学校保健	<p>本科目は、学校における児童生徒学生の健康の保持増進を図る目的にむけて、学校の場における対象と健康課題、学校保健の構造と養護教諭の役割について理解することを目的とする。法的基盤と学校保健における保健教育と保健管理について理解し、学校保健関係者や学校保健の活動範囲および学校安全等について学ぶ。</p>	
	養護概説	<p>本科目は、学校教育法における養護教諭の配置および位置づけと役割（養護教諭のカウンセリング機能、心身の健康問題への支援および学校保健の推進など）、保健室の機能と養護教諭の役割について学ぶことを目的とする。また、学校保健の現状の課題について考えるとともに、課題への対応に必要とされる養護教諭の支援技術（個別支援と家族支援、集団支援）について学習する。</p>	